

## 地域で安心して働き 暮らしていくために！

後藤 武男 (ごとう たけお)

特定非営利活動法人福祉サポートきらきら本舗 理事長

農山漁村における地域の活性化や、個性的で魅力ある地域づくりの優れた活動を紹介するシリーズ。

今回は「わが村は美しくー北海道」運動第7回コンクールで奨励賞を受賞した「特定非営利活動法人福祉サポートきらきら本舗」理事長の後藤武男さんにお話をお伺いしました。

### 《地域と共に障がい者を支え》

訓子府町はオホーツク地方の内陸に位置し、人口4,600人ほどの自然と環境を大切にする農業が主産業の緑豊かな、人にも優しい町です。その町で障がい者の就労機会をつくり、安心して地域で暮らせるために、福祉サポートきらきら本舗は活動しています。

きらきら本舗は、1985年に前身である「たんぼぼ親の会」が障がい児を持つ親4組が集まり結成したのが始まりです。当初は学習会活動や地域参加活動等の自主運営活動を実施。2001年には、訓子府町役場新庁舎と総合福祉センターがオープン。庁舎の一角に障がいを持つ人が働く「喫茶たんぼぼ」が設置され、地域の方々の憩いの場となっています。2006年にNPO法人化し「特定非営利活動法人福祉サポートきらきら本舗」を設立して、さまざまな事業に取り組んでいます。



訓子府町のふるさと納税返礼品の「ホワイトショコラ」(左上)と「紫式部」(右)。左下は「ピーツジャム」



きらきら本舗が運営する訓子府町役場1階の軽食喫茶「たんぼぼ」

### 《地元産にこだわった商品開発！「紫式部」》

昔から訓子府町では、家庭用に栽培したシソを使って、ジュースを作り夏バテ防止として飲まれていました。その訓子府町の「三大加工品」と言われ、惜しまれながら2005年に販売中止となった「シソジュース」を、各団体からの指導や協力でノウハウを継承し、2011年に赤シソ飲料「紫式部」として復活させました。きらきら本舗では、自らシソを栽培し、収穫からジュースの製造・販売までを行っています。2015年からは訓子府町のふるさと納税の返礼品にもなり、好評を得ています。

その他にも町の委託を受け、単身高齢者や単身障がい者への配食サービス事業、団体メンバーが各種農作物を作付けした大豆を使った味噌、ピーツはピーツジャムなどに加工。なかでも白いトウモロコシの「ホワイトショコラ」は、きらきら本舗独自で全国に販売・発送するなど農福連携の取り組みを実施しています。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行後、各イベントも再開され、きらきら本舗も大好評の手作りシフォンケーキの販売に期待していましたが、鳥インフルエンザ流行の影響により卵の確保が困難になって、違う商品アイデアに頭を悩ませています。

「たんぼぼ親の会」から携わる後藤理事長は、メンバーや保護者も高齢化する中、障がいを持って「この地域で生活していきたい」という人たちの生活の拠点をつくるため、地域住民や他団体とも連携しながら、これからも自立支援や地域活性化に取り組んでいきます。

※ 当協会ホームページ、開発調査総合研究所・調査研究報告書から「わが村は美しくー北海道」運動第1～9回受賞団体の活動概要をまとめた冊子をご覧ください。